

特集

# ADSLが切り開く ブロードバンド3000万市場

既存の電話回線を利用してインターネットへの高速・常時接続を実現するADSLが、いよいよ本格化の時期を迎えた。NTT地域会社の設備開放、また自らのサービス提供などにより、市場の急拡大とともに、事業者間の熾烈な競争も巻き起ころうとしている。本特集では、パート1でADSL事業者各社の戦略をもとにマーケットの動向をレポートする。パート2では、企業ユーザーを中心とした利用シーンに焦点を当て、今後の需要動向を探る。

PART 1

市場動向

地域密着、大都市集中で突破口を開く  
キャリア系事業者は広域展開へ

昨年12月26日、NTT東西地域会社が「フレッツ・ADSL」によりADSLサービスに本格参入した。

このサービスは、ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line:非対称デジタル加入者線)と呼ばれる技術を利用して、家庭に引き込まれている電話線に相乗りする形で、上り(加入者から電話局方向)で512kbps、下り(電話局から加入者方向)では実にISDNの20倍にあたる最高1.5Mbpsという高速でインターネットに常時接続できるようにしたもの。もちろん電話は従来通り利用可能だ。

特筆すべきなのがサービスエリアの展開ペースである。サービス開始当初こそ東京都内の12収容局、大阪市内の8収容局管内でサービスが受けられるに過ぎないが、3月末までには東京23区全域と首都圏の一部、大阪府の全域に

拡大、翌2001年度初頭には県庁所在地で利用できるようにするという。

ADSLサービスでは、東京めたりっく通信やイー・アクセスなどのベンチャー企業が先行し、昨年末時点で約1万の利用者を集めているが、サービスエリアは大都市を中心とした一部の地区に限られている。これを一気に全国の主要都市で使えるようにしようというのだ。

サービスの発表にあたって、NTT東日本の古賀哲夫営業部長は「そう遠くない将来、市政都市くらいはエリアにしていかなければいけない」と、来年度以降も積極的なエリア展開を行う姿勢を示した。

NTT東西は、一昨年12月から試験サービスとしてADSLサービスを提供していたが、最近までこの技術には否定的であった。それがここに来て方針を一転、積極展開に乗り出したのである。